出　張　報　告

報告日　令和８（２０２６）年４月７日

会 派 名	公明党
報告者氏名	眞貝維義、西川弘美
種　　別	□調査研究（□行政視察）　■研修会　□要請・陳情　□各種会議
用　　務	研修会受講
日　　時	令和８年３月２６日（木）　令和８年３月２７日（金）
場　　所 （会場）	リファレンス西新宿大京ビル（東京都新宿区西新宿 7-21-3）
調査項目等	３／２６　地方議員研究会「議会質問の基礎」「生成ＡＩの基礎」 ３／２７　地方議員研究会「財政問題の取り上げ方」「人口問題の取り上げ方」
概　　要	講義題名：生成 AI チャット GPT を活用した質問づくり最新セミナー 講師：宮本正一氏（元寝屋川市議会議長、日本公共経営研究所代表、元吉野町役場政策アドバイザー） 概要：「議会質問の基礎」～質問力の向上と実践への応用～ １．一般質問づくりの基礎　２．一般質問の効果と答弁の切り返し ３．実戦経験からの極意　４．地方自治法の要点 「生成ＡＩの基礎」 １．まずアプリを入れて触ってみよう　２．AI にできて、議員にできないこと　３．効果的な指示の方法や活用事例　４．ChatGPT で簡単！質問づくりの下準備 「財政問題の取り上げ方」～データと現場感覚で考える財政チェック～ １．財政の基本指標　２．決算カードの読み方　３．AI の活用法 ４．夕張市の教訓 「人口問題の取り上げ方」～人口減少社会をどう議会で扱うか～ １．人口問題の現状を知る　２．生成 AI とデータ活用を学ぶ ３．議会での戦略的取組みを考える
所 感 等	「生成 AI（ChatGPT）の基礎」 今回の研修会「議員活動に役立つ実践スキル　生成 AI（ChatGPT）の基礎」を受講し、生成 AI の進化が議員活動に与える影響の大きさと、その活用の在り方について深く考えさせられた。 まず、AI の特性として、膨大な資料や情報の整理・要約、複数文書の比較分析、多言語対応といった分野においては、人間の処理能力を大きく上回る力を

	有していることを改めて実感した。とりわけ、政策形成や議会質問の準備においては、これまで多くの時間を要していた情報収集・分析作業を効率化し、より本質的な議論に時間を振り向けることが可能になる点は、極めて有用であるが、一方で、議員にしか担えない役割も明確である。現場の空気感を踏まえた判断、市民との信頼関係の構築、そして最終的な意思決定に対する責任は、いかにAIが進化しようとも代替できるものではない。むしろ、AIを活用する時代であるからこそ、こうした人間としての判断力や倫理観の重要性は一層高まるものと考える。 　また、AIを有効に活用するためには、適切な指示、いわゆるプロンプトの設計が極めて重要であることも学んだ。役割の明確化、5W1Hに基づく具体的な条件設定、出力形式や対象読者の指定などを行い、さらに修正を重ねていくことで、初めて実務に耐え得る成果が得られる。この過程自体が、議員としての思考整理や論点の明確化にも資するものであると感じた。 　しかしその一方で、AI 活用には留意すべき点も多い。個人情報の取り扱いには細心の注意を払う必要があり、また、いわゆるハルシネーション（誤情報生成）のリスクも存在する。したがって、AIの出力をそのまま用いるのではなく、必ず人間が検証し、最終判断は議員自身が行うという基本姿勢が不可欠である。 　生成AIは議員活動を補完し、その質を高める有力なツールである一方、あくまで主体は議員自身であると認識した。 「財政問題の取り上げ方」 　本研修会においては、自治体財政の実態を的確に把握し、議会として適切に問題提起を行うための視点と手法について学んだ。特に、決算カードを基礎資料として活用し、客観的データに基づく財政分析を行う重要性を再認識した。 　まず、単年度収支については、単なる黒字・赤字の確認にとどまらず、その継続性に着目する必要があるとの指摘があった。とりわけ、2年連続の赤字は資金繰りの悪化、いわゆるキャッシュフローの逼迫を示す重要なシグナルであり、早期にその要因分析と対応が求められる。 　次に、財政調整基金については、自治体の「預金」に相当するものであり、その残高が標準財政規模の 20%を超える場合には、過度な積み上げとなっていないか、あるいは逆に適正な活用がなされているかといった観点から検証が必要であり、財政の安全性、すなわちキャッシュストックの健全度を測る重要な指標である。 　また、経常収支比率については、財政の硬直化を示す代表的な指標であり、特に人件費が 30%を超える場合には注意が必要であるとの視点は重要と感じた。義務的経費の増大は、政策的経費の自由度を低下させ、将来的な財政運営の柔軟性を損なう要因となる。 　また、自主財源比率の高さは財政の安定性を示す重要な要素であり、依存財源に過度に頼らない財政構造の構築が本市においても求められる。

	歳出面においては、少子高齢化の進展に伴う民生費の増加、公共施設の老朽化に対応するための土木費の増大、さらには人件費の増加が、いずれも財政を圧迫する主要因であることが示された。一時借入金利子についても、資金繰りの悪化を示す兆候として注視すべき指標であるとの指摘があった。 AI の活用による財政分析は、膨大な財政データを効率的に整理・分析し、自治体の弱点やリスクを可視化することで、より精度の高い政策提言や議会質問につなげることが可能となり、従来の経験や勘に加え、データに基づく客観的な裏付けを持つことの重要性を認識した。 北海道夕張市の財政破綻に至った事例においては、事前のデータ比較により財政悪化の兆候が既に現れていたことが示され、財政問題は「突発的に発生するものではなく、必ず前兆がある」という点からも、財政問題への対応においては、早期発見・早期対処が何よりも重要であり、そのためには決算カードをはじめとする各種データを的確に読み解く力と、AI 等の新たなツールを活用する姿勢が不可欠であると認識した。 「人口問題の取り上げ方」 本研修で、強く感じたのは、人口減少と AI の進化という二つの潮流は、もはや抗うべきものではなく、受け入れるべき「前提条件」であるという現実である。その上で問われているのは、技術の使い方そのものではなく、「何を大切にするのか」という価値の選択であるという点に、大きな示唆を得た。 AI の進化は、その利便性に依存するほどに、利用する人間に求められる資質は、むしろ厳しくなると感じた。特に印象的であったのは、「プロンプト」の質と、その前提となる情報が正確であるかを見極める「ファクトチェック」の重要性である。AI はあくまで与えられた条件の中で最適解を導く存在であり、その前提が誤っていれば、導かれる結論もまた誤ったものとなる。したがって、AI を活用する時代においては、人間の側の思考の精度と責任がこれまで以上に問われることになる。 また、人口減少社会における政策の在り方についても、大きな意識転換の必要性を感じた。これまでのように人口増加を前提とした発想ではなく、減少することを受け入れた上で、いかに地域の価値を高め、持続可能な形に最適化していくかという視点が不可欠である。その際、AI やデータは強力な補助線となるが、最終的な判断において重要となるのは、地域の実情や市民一人ひとりの暮らしに寄り添う視点であると認識した。 議会の役割についても改めて考えさせられた。これまでの延長線上で議論を重ねるだけでは、急速に変化する社会に対応することは難しい。議会には、過去の踏襲ではなく、未来に対する責任として「希望を描く力」が求められている。そのためには、データや AI を活用しつつも、現場感覚を失わず、人間としての価値判断を磨き続けることが必要であると感じた。 （眞貝維義）

	「議会質問の基礎」 　本研修では議会質問の本質と具体的な技法について体系的に学ぶことができた。冒頭で示された「議員の発言は市政を動かす強力なツールであり、歴史に残る記録である」という言葉は非常に印象的であり、自身の発言の重みと責任を改めて認識する契機となった。 　特に、一般質問を「木」に例えた構造的な考え方は理解しやすく、実践的であった。市民相談や自らの問題意識を根とし、論理構成やエビデンスを幹、客観的事実を枝、具体的な質問を葉として組み立てる手法は、質問の質を高めるうえで非常に有効であると感じた。これまで感覚的に行っていた質問作成を、より論理的かつ戦略的に構築する必要性を強く感じた。 　また、一般質問の意義として「行政チェック」「政策実現」「市民への説明責任」の三点が示され、議員として果たすべき役割を再確認した。特に、調査やヒアリングの段階で関係法令を十分に読み込む重要性については、自身の取り組みを振り返り、まだ不十分であると痛感した。 　さらに、講師の実体験に基づく具体的な質問例や答弁への切り返しの技術は非常に実践的であり、今後の議会活動に直結する内容であった。加えて、地方自治法の理解、とりわけ議決権の重要性についての説明からは、制度的根拠に基づいた発言の必要性を学んだ。 　研修を通じて、エビデンスに基づく質問の重要性とともに、日頃から資料を読み込み、分析する力を養う必要性を強く認識した。今後は本市の予算書や決算書、各種計画資料を丁寧に確認するとともに、これまでの自身の質問内容を振り返り、より質の高い質問へとブラッシュアップしていきたい。 「生成 AI（ChatGPT）の基礎」 　本研修では、生成 AI の基本的な仕組みと活用方法について学んだ。まず、生成 AI には文章作成や要約、翻訳などの機能があり、膨大な情報を迅速に処理できる点が大きな特徴であることを理解した。一方で、現場の状況判断や市民との信頼関係の構築、最終的な意思決定などは議員にしか担えない役割であり、AI はあくまで補助的な「道具」であるという認識が重要であると学んだ。 　また、効果的に AI を活用するためには、プロンプト（指示）の工夫が不可欠であり、役割設定や具体的な条件提示、出力形式の明確化などが重要であることが示された。実際の活用事例としては、一般質問のたたき台作成や議会報告の文章作成、先進事例の調査など、議員活動の幅広い場面で有効であると感じた。 　一方で、利用にあたっては注意点も多く、特に個人情報の入力禁止や、AI が誤った情報を生成する可能性（ハルシネーション）への対応として、必ず事実確認を行う必要があると強調された。AI の回答を鵜呑みにせず、最終的な判断は自らが責任を持つ姿勢が求められる。 　受講前は AI 活用に不安もあったが、研修を通じて、適切に使えば業務効率の向上や時間の有効活用につながることを実感した。今後は、AI を有効な補

	助ツールとして取り入れつつ、最終的には自らの言葉と判断で市民に向き合う姿勢を大切にし、議員活動に活かしていきたい。 「財政問題の取り上げ方」 　研修を受講し、自治体財政を的確に把握・分析するための基本的視点について理解を深めた。講義では、議員には郷土愛に加え、データを読み解く力と現場感覚の双方が求められることが強調され、感覚だけでも数値だけでも不十分であることを再認識した。 　まず、財政の基本指標として、実質単年度収支、財政調整基金、経常収支比率、一時借入金利子の重要性について学んだ。これらは自治体の財政状況を多面的に把握するための基礎であり、特に経常収支比率の上昇や人件費の増加は財政の硬直化を招くため、継続的な確認が不可欠であると理解した。 　次に、決算カードの読み方について、歳入では自主財源と依存財源の構成比、歳出では民生費や人件費の推移など、具体的な着眼点が示された。これにより、数値の羅列としてではなく、財政の特徴や課題を読み取る視点を持つことの重要性を学んだ。 　さらに、生成 AI の活用についても紹介され、財政データの分析や議会質問の作成において効率化と質の向上が期待できる点は非常に有益であると感じた。今後の議員活動において積極的に活用していきたい。 　最後に、夕張市の財政破綻の事例から、問題の先送りが深刻な結果を招くこと、そして定期的な財政チェックと早期対応の重要性を学んだ。 　財政は難解な分野であるが、基本指標と分析視点を押さえることで客観的な判断が可能となる。本研修で得た知識を今後の活動に活かし、持続可能な自治体運営に寄与していきたい。 「人口問題の取り上げ方」 　本研修では人口減少の現状認識から政策立案、住民への伝え方まで幅広く学んだ。講師はまず、今後人口が増加に転じることはないという前提に立ち、75歳以上の高齢者の増加と生産年齢人口の減少、少子化の加速といった人口構造の変化を踏まえ、「人口が少なくても持続可能なまちづくり」の必要性を強調した。 　次に、EBPM（証拠に基づく政策立案）の重要性について、自治体の実データを可視化し、将来推計と組み合わせて課題を抽出する手法が示された。その際、生成 AI を活用することで、膨大なデータ整理や分析が効率化され、実効性のある政策検討につながる点が印象的であった。 　また、「消滅可能性自治体」の概念や東京圏への一極集中など、人口減少の構造的課題についても理解を深めた。単なる危機の提示ではなく、住民が自分事として捉えられるよう、対話型で伝える工夫や将来像と政策をセットで示す重要性も示された。 　議員に求められる資質として、危機感と行動力、対話力と傾聴力、データに

	基づく検証力の三点が挙げられ、日常の小さな変化を見逃さず政策に反映する姿勢の重要性を再認識した。 　今回の研修を通じ、人口減少はすべての政策の出発点であり、客観的データに基づいた議論と住民との共有が不可欠であると強く感じた。今後は、生成 AI も積極的に活用しながら、分かりやすく伝える工夫を重ね、合意形成を意識した議会活動に取り組んでいきたい。 （西川弘美）